

海津市まちづくり委員会「第16回ふるさと定住促進検討分科会」会議録

開催年月日	平成22年11月17日(水)																							
開催場所	海津市役所海津庁舎3階「委員会室」																							
分科会委員定数	14名																							
開 会	午後1時30分																							
閉 会	午後3時30分																							
出席者	○分科会委員 <table border="0"> <tr> <td>岐阜経済大学経済学部教授</td> <td>池 永 輝 之</td> </tr> <tr> <td>公募市民</td> <td>村 上 碩 也</td> </tr> <tr> <td>公募市民</td> <td>古 川 義 弘</td> </tr> <tr> <td>公募市民</td> <td>藤 田 繁 己</td> </tr> <tr> <td>公募市民</td> <td>本 多 高 洲</td> </tr> <tr> <td>公募市民</td> <td>堀 田 義 郎</td> </tr> <tr> <td>公募市民</td> <td>柴 田 夕 子</td> </tr> <tr> <td>公募市民</td> <td>坂 本 由 貴</td> </tr> <tr> <td>公募市民</td> <td>伊 藤 祥 子</td> </tr> <tr> <td>女性人材リスト登録者</td> <td>安 部 晶 子</td> </tr> <tr> <td>高須生活学校代表</td> <td>加 藤 佳 余 子</td> </tr> </table> ○事務局 企画政策課 課長 中 島 哲 之 係長 後 藤 政 樹 〃 主任 毛 利 卓 司		岐阜経済大学経済学部教授	池 永 輝 之	公募市民	村 上 碩 也	公募市民	古 川 義 弘	公募市民	藤 田 繁 己	公募市民	本 多 高 洲	公募市民	堀 田 義 郎	公募市民	柴 田 夕 子	公募市民	坂 本 由 貴	公募市民	伊 藤 祥 子	女性人材リスト登録者	安 部 晶 子	高須生活学校代表	加 藤 佳 余 子
岐阜経済大学経済学部教授	池 永 輝 之																							
公募市民	村 上 碩 也																							
公募市民	古 川 義 弘																							
公募市民	藤 田 繁 己																							
公募市民	本 多 高 洲																							
公募市民	堀 田 義 郎																							
公募市民	柴 田 夕 子																							
公募市民	坂 本 由 貴																							
公募市民	伊 藤 祥 子																							
女性人材リスト登録者	安 部 晶 子																							
高須生活学校代表	加 藤 佳 余 子																							
欠 席 者	公募市民 加々本 紘 一 女性人材リスト登録者 石 川 晴 代 海津市自治連合会代表 諏 訪 薫																							

会 議 次 第

1. 開会
2. あいさつ
3. 報告書(案)について
4. その他
5. 閉会

会議録（要約）

事務局	ただいまから海津市まちづくり委員会「ふるさと定住促進検討分科会」第16回目の会議を開催させていただきます。 はじめに会長よりあいさつをお願いします。
会 長	（あいさつ）
事務局	ありがとうございました。 本日は報告書（案）についてご議論いただきたいと思います。前回会議の際に委員の皆さんから頂いた意見や議論を踏まえ、報告書の案を事務局において作成させていただきました。それでは順に説明をさせていただきます。 1 Pの「はじめに」ですが、当分科会が人口流出抑止策について検討をする経緯を簡単にまとめたものです。 次に2 Pですが、流出要因について、これまでワークショップを幾度と行いましたが、それらの意見をまとめたものです。一次素案の段階では、各分野毎に要因を整理しておりましたが、分野毎の表記では範囲が広すぎますので、例えば職場・就職環境というところは、3次産業などの雇用につながる企業が少ない、また、若者が好む企業がない、という意見が多数出ておりましたので、「若者にとって魅力的な企業が近隣市町にない」といったように具体的な表現とさせていただきました。 次に3 Pの重要課題についてですが、こちらは一次素案とほぼ同じ内容になっております。 ここまでで、ご意見・ご質問はありませんか。
A委員	要因の前に合併以来の動向を示したほうが具体性・危機感が出て良いのではないですか。
B委員	データで出していただいて、人口減少が市の活性化をどのように阻害するのかなど書かれてはどうですか。
事務局	統計のデータを出すことは可能です。それでは人口推移を掲載させていただきます。人口減少による弊害については、一般論を書かせていただくということではよろしいでしょうか。 （異議なし）
C委員	重要課題の中に「海津市の負の部分」とありますが、この表現はどうでしょう。また、「若者にとって魅力的な支援制度」ということと、「市民にとって魅力的なまち」という表現ですが、これを「魅力的なまちであると同時に支援制度がある」というようにした方が良いと思います。
D委員	私は、「若者にとって魅力的な・・・」と「市民にとって地域生活が・・・」の部分を入れ替えれば済むと思いますが。市民にとって地域生活が良好であるということが基本であって、その次に支援制度があるということではないですか。そうすれば先ほどのご意見ともつながると思いますが。

A委員	地域コミュニティを元気にする仕掛けづくりというところですが、誰がどうして作るのかということ、もう少し具体的に踏み込んで書いてはどうでしょうか。
事務局	まず「負」の部分の表現は、「海津市に不足している部分」に改めさせていただきます。 コミュニティの仕掛けづくりについては、提案で書かせていただきましたが要は仕掛けがあっても担い手がない、それをどうするんだ、ということ懸念されてみえると思いますので、提案に挙げさせていただいたことを例に説明させていただきます。今までの議論の中でも出ておりました子育て支援の関係ですが、母親同士の情報交換する機会や子どものことを相談できる場所が少ないといったご意見が出ておりました。一方、市内には子育てサポーターさんがたくさんみえますが活躍の場が少ないといった話も伺いました。そうであるなら例えば、子育てサポーターさんが子育て相談やママさん達の交流の場としてカフェを運営してはどうだろうと、そのために必要な支援を子育てサポーターさんと行政とが協議して、協働事業として実行できるんじゃないかという具体的な例示をさせていただきました。ただし、補助金頼みの事業ではなく、自立した活動、コミュニティビジネスとして運営できるように、担い手となる子育てサポーターさんなどの人材がやる気を出していただかないといけません、補助金はあくまでもきっかけと言いますか、継続的にお金が出るわけではありませんので、協働事業の起爆剤になるのではないかと考えられます。そうした意味で、補助金を1つの仕掛けと言う風に解釈していただくこともできるかと思えます。 また、ただいま説明した例示ともう1件の例案がありますが、それらを実行していきましようという意味ではなく、協働事業補助金というものがあったとすれば、こういう取り組みも考えられるのではないかというものですので、お間違えのないようお願いします。 子育て支援以外にも郷土愛を育てる取り組みや、交通の問題、防犯・防災など提案次第ではとても充実した協働事業が展開できるのではないかと考えられます。
C会長	郷土愛という言葉が使われましたが、ぜひ家族愛とか地域愛とか、そういった表現を提案の中で使っていただきたいと思います。
D委員	流出要因の見解のところ、 「若者はホワイトカラー思考であり、工場等の現場作業員には従事したがるのではないのでしょうか。」とありますが確かにそういう意見もあるかもしれませんが、今現在、現場作業に就いている人からすれば3Kじゃありませんが、あまり良い表現とは言えませんが。
事務局	その部分については、削除させていただきます。
池永先生	「例えばこんなまちづくり」というのが2つありますが、A委員さんが地元で取り組んで見えるような活動は事例とはならないのかお聞きしたいのと、具体例をもっと出すことはできませんか。

事務局	事例を出すことは可能ですが、協働事業というのは、行政の仕事と言いますか、行政のテリトリーにあることを市民と協力して行っていくものですので、村上委員さんの地域での取り組みは素晴らしいと思いますが、協働事業ではないので、今後、そうした動きが出てくることに期待しています。
A委員	私たちは、“自分達でできること、行政の支援が必要なこと、行政がすべきこと”ということに分けて考えており、プランを立てております。現在は行政には声をかけていないので、来年には協働事業としてできる提案をしていきたいと考えています。
事務局	重要課題の2つについては案の通りで、その前の文章の部分「若者にとって魅力的な・・・」と「市民にとって地域生活が・・・」は、ご意見のあった意味合いとしては、同じですので、修正については事務局にお任せいただきたいと思います。
池永先生	提案部分をみておりますと、「農業の企業化経営を促進し、希望の持てる農業を実現」のところですが、他の提案は具体的な事案が書かれていますので、農業の企業化についても何か書けると良いですね。 公設農業研究機関とか、その誘致とか、今はT P Pの問題なんかもありますので農業が大きく変わっていく時にそれを先導する公設の機関が必要なのではないかと思います。何か具体的な事を入れていきたいと思うんですが。
事務局	企業化をしようという提案なのですが、過去に企画案を出していただいた際には企業化を促進するために具体的に何をせよという案がありませんでした。促進するための施策をこれから市で検討していくべきだという意味で、こういう形で書かせていただきました。 奨学金についても同様で、施策としてこれから市で検討しなさいよという提案と考えております。
D委員	養老町長選の候補者の所見をざっと見たんですが、候補者は企業誘致をしようとして、企業誘致をして職場づくりをしようという事を言っています。ところがこの提案では企業誘致、職場づくりには触れていないのは、もう企業が来てくれないからやめたんでしょうか。
事務局	企業誘致に関しては、すでに市として取り組んでいるということはお話させていただきました。
D委員	それをさらに促進しましょうと、大義名分の順序として企業誘致は必要なのではないかと思いますがどうでしょうか。
C委員	この会として企業誘致を引き続き積極的にやっていきなさいよということで良いんじゃないですか。
B委員	要因の見解のところに、若者にとって魅力的な・・・というものがあって、こ

	れの答えが情報発信で、地元で就業者を増やそうという提案ですよね。今の実態として就業者の4分の1が県外で就職しているという実態をとらえた見解が出ていないと思います。人口構成が多いところに対しての不便さを解消する提案が必要なんじゃないですか。地元企業に勤めてくださいというのは無理だと思います。これからはベッドタウンとしての市の機能に徹する、市外へ勤めていただくのは結構ですが市内に住んでくださいということ前提とした提案が必要なんじゃないですか。
事務局	企業誘致の話もそれに関してベッドタウンに関して依然議論がされていたと思います。企業誘致に関しては池永先生からも話がありましたが、地元との関わりと言いますか、工場ができて従業員は市外の派遣社員を使う、大型小売店がきたとしても地元産品を扱ってくれないなど、話がありました。また、ベッドタウンに関して大規模な住宅開発の話などがありましたが、企画案の議論の中で具体性がなく消えていったと記憶しています。
B委員	アパートを造れとか言ってるのではなくて、通勤・通学を整えることが必要だという意味なんです。
C会長	交通網の整備というか、便利な環境づくりということであれば企画にありましたね。橋を架けるとか通勤の人に手当てや補助金をだすとか。
A委員	橋を架けるという話が出ましたが、少し前にあるセミナーに行ってきたんですが、たまたま東海環状線の西回り線の話が出たので質問したところ、「海津市を上空から見てください。後ろに屏風（山）があるのに橋を架けてもどのように利用されるつもりなんでしょう。背後地がないのに、どう活用を考えるのですか。海津市は背後地が3～4kmでしょう、その中で何を考えるんですか」と言われました。見てる人は大きく見て考えているのかなと感じました。企業誘致と言ってもそれに手足がつかないとほんとの企業誘致にはならないのではと思いました。
C委員	今のような広大な土地への企業誘致じゃなくて、何十人とか小規模でも、そういう考え方でいいのかと思います。そんな土地もありませんし、小さい企業でも来ることによって少しは変わってくると思います。
D委員	海津市にも8か所くらいに工場適地がある個所を選んで、それを立地診断というようなことを市がやられたようで、海津市もゼロではないのかなと思います。
事務局	一度仕切り直しをさせていただきたいのですが、前回のワークショップのご意見を参考にこの報告書の案を作成させていただいたわけですので、この提案の項目が決まりというわけではありません。今の議論は、突っ込んだ話になっていますので、まずここに挙げさせていただいた企画で良いのかという議論をしていただいた方が良いかと思います。挙げさせていただいた提案事項の選定理由もまだ説明させていただいておりませんので、ひとまず仕切り直しをさせていただきたいと思います。 報告書（案）に挙がっている提案事項ですが、前回皆さんにご協議いただい

た、提案書に残すべき企画案の中から、重要課題と若年層への対策ということ踏まえて、6つ挙げてみました。

1つめは、「地元企業の情報発信と企業展の開催」です。就職の際、大都市を選ぶ、また、大都市に就職することは、若者の都会への憧れや大学卒業後にそのまま都市で就職することが考えられます。また、ワークショップでも当地域・近隣地域には、あまり企業がないかのようなイメージがあり、地元就職者が少ないのではないかといったご意見もありました。そこで、今できる取り組みとしては、就業地が市外であっても海津市に住んでいただければ良いことなので、通勤可能な範囲の企業情報を学生なり就活者に対し、どんどん提供していくことが必要ではないかということで挙げさせていただきました。

2つめは、「奨学金制度の創設」です。これは、大学生が就職先を検討する中で、なんとか地元および近隣市町の企業も選択肢の1つとして考えてもらうための対策です。卒業後に海津市に定住した場合、その年数に応じて返済額を減免するもので、減免額は議論していませんが、恵那市の事例でも皆さんの関心が高かったことから挙げさせていただきました。

3つめは、「子育て世代に優しい企業の育成」です。近年は夫婦共働き世帯が増加してきており、少子化対策としても母親の復職や再就職など、色々な課題が取りざたされております。海津市においてもそうした企業を何らかの形で応援することで、若年世代、特に母親の雇用場所の確保につながり、また間接的にも子育てを支援する事になるのではないかとということで挙げさせていただきました。ただ、具体的な内容は今後も十分な検討が必要であると考えられます。

4つめは、「農業の企業化経営を促進し、希望の持てる農業を実現」です。以前のワークショップで、若者は農業に魅力がない、といったご意見がありました。まさにその意見が、多くの人が農業に対して持っているイメージなのだと思います。魅力がないから仕方がないのではなく、企業化により様々な事業展開を行うことで農業に対するイメージも変化していくことはないでしょうか。当市の主要産業は農業です。農業が就業先の1つとして考えてもらえるようなアイデアを出し合って実行していくことが大切であるという意味で挙げさせていただきました。

5つめは、「空き家紹介を実施」です。結婚して市外へ出て行く、しかも近隣市町に出ていくことが多い、といった人口動態調査のデータから住まいを考えないといけないというご意見がこれまでたくさんあったと思います。当市は、農地転用云々といった問題がありますが、今できる取り組みの1つとして空き家を紹介するといったことなのですが、これは移住にもつながりますし、今ある素材・資源を有効に使うということで、試みとしては良いのではないかとということで挙げさせていただきました。

6つめは、「市民提案型・行政提案型協働事業の実施」です。重要課題にもありますが、定住するにはまず、市民にとって地域生活が快適であることや地域に愛着がないといけないということで挙げさせていただきました。事業の内容は補助金ですが、市民主体のまちづくりが積極的に行われるための起爆剤として、また、市民協働というのは、これからのまちづくりの重要なテーマでもありますので挙げさせていただきました。内容をわかりやすく説明させていただくために“例えばこんなまちづくり”という例示を2つ付けさせていただきました。この部分は、市民の皆さんと行政でアイデア

	を出し合えばいくつでも出てくると思います。 提案事項の選定についての説明は以上です。対策案としてはたくさん出ておりましたが、事務局で6つ選定させていただきました。個々の対策に対する細かい議論は抜きに、まず提案事項として入れたほうが良いと思われるものなどご意見を頂ければと思います。
B 委員	その他のアイデア一覧というのがありますが、地域コミュニティーに関するものがいくつかありますが、今1つしか挙がっていないので寂しいかなと思います。
事務局	前回の会議において、地域コミュニティーの対策としては大きく一括りにできますねという話になり、協働事業補助金の中で解決できるという結論になりましたのでここに1つだけ挙げています。 また “例えばこんなまちづくり①②” がありますが、事業内容を分かりやすくするために事務局で付けさせていただきました。
C 委員	今既に補助金と言うものがたくさんあると思います。そういったものを有効的に整理したほうが有意義な提案になると思います。
事務局	おっしゃるとおりです。補助金に関しては、今まであるものを当然吟味しながら実施されていきますので、例えば仮にこの補助金ができたとしたならば、その中で実施できる従来の補助事業などは整理する必要もあります。
E 委員	「子育て世代に優しい企業の育成」についてですが、保育園は生後6カ月から入れるので保育園に預けるので、「③企業内又は複数企業が連携した託児所などの設置に向けた支援」は必要ないと思います。 提案に出産・子育てがなくなってしまったのでお願いなんです、病気などで急に子どもを預ける必要があった場合の対応を提案に挙げて欲しいです。 また子宮けいがんワクチンですが、子どもを産むことが人口増加につながるということもあるので、もう少し手厚く考えていただきたいと思います。
F 委員	女性に対する支援やケアを大事にしないとだめだと思います。
事務局	子宮けいがんワクチンについては、議会の一般質問にも出ておまして、近隣市町村の動向を見極めながらと答弁しておりますので、この件に関してはお待ちいただきたいと思います。 反論ではありませんが、ここに挙がっている提案については、ターゲットを20～30歳代に絞っているということが1つと、病気の際の対応については、これは1つの市民ニーズになると思うんですが、個々のニーズに行政が対応していくことは難しいということもありますので、例えば提案型協働事業の中で、そうした問題を解決できないだろうかといった考え方もあります。
F 委員	このターゲットは男性を指しているんじゃないですか。女性に対する支援も強調する意味で、何か言葉を入れて欲しいです。

E 委員	20～30 歳代の働く女性に対する提案と言う感じはしますが、では働いていない女性には何もないのかと思います。
事務局	男性向けの提案ということはないと思います。 企業誘致とベッドタウン化のご意見がありましたが、これを提案に入れるかどうかご意見をいただきたいと思います。
D 委員	要望事項の中に入れていただけますか。検討ではなく、さらなる推進をしていただきたいということで要望をしていただきたいと思います。
事務局	わかりました。 要望事項に関連してですが、これまでの議論の中で子育て支援関連について、特に女性委員さんからご意見を多くいただいております。特に病院の問題・医師（小児科医）の問題については、自分たちではどうにもならない、行政でなんとかしてほしいという声がありました。人口流出に直接つながるかどうかは未知数ですが、現状として専門の小児科医院がないことは事実ですので、医師の配置に向けた検討をして欲しいということで要望事項に挙げさせていただきました。 ベッドタウン化の件については、住宅地云々ということではなくて、海津市に定住して市外・県外に通勤しやすい環境整備をせよというご意見だったと思いますがよろしいでしょうか。
G 委員	交通網の整備は大事なことで、新幹線とか鉄道とかコミュニティバスとか、そういったものを利用するときに、乗り継ぎの待ち時間が 1 時間以上あるとか、そういったことは不便であるから、各機関と連携したダイヤを考えて、利用に便利な環境を整えて欲しいと思います。また、ベッドタウン化は空き家紹介にも通じることであって、今あるものを最大限利用して、できるだけすり合わせて利用しやすくすることが良いのではないのでしょうか。
B 委員	駅も利用しやすいように駐車場とか駐輪場の整備などが必要だと思います。
G 委員	海津・平田はコミュニティバスしか公共交通がないので、もう少しなんとかしてあげたいですね。ベッドタウン化を目指すということについては、今ある資源を有効活用していくことが必要だと思います。
事務局	駐車場、駐輪場のご意見がありましたが、養老鉄道活性化協議会というものがありますので、そちらの話を伺いながら、当分科会で提案する必要があるれば掲載させていただきたいと思います。
G 委員	養老鉄道活性化協議会と言われましたが、できるだけ歩み寄っていただかないと良いものができるんじゃないですか。利用促進の話がメインであって、周辺整備までは話に出てないんじゃないですか。
事務局	時間もありませんので、ここで議論を終了させていただきたいと思います。提案書（案）について、みなさんもう一度ご確認いただき、ご意見などありましたら事務局までお知らせいただきたいと思います。本日、お出しさせて

	いただいた案で大筋よろしいでしょうか。大まかな修正がなければ、本日のご意見ご提案を整理させていただいて、次回の分科会で完成ということになります。よろしいでしょうか。 (異議なし) その他アイデア一覧は提案や要望に残らなかった企画ですが、まちづくり委員会幹事会への報告書の中では紹介させていただきますが、市長への提案書では割愛させていただくことになる予定です。要望部分までは出させていただきます。
C委員	省略する部分を別紙などで出すことはできないのですか。
A委員	市長も見たいかもしれないから全部出せば良いじゃないですか。取捨選択は市長がされるのだから。
事務局	わかりました。その他アイデアも掲載させていただきます。 それでは、以上をもちまして海津市まちづくり委員会「第16回ふるさと定住促進検討分科会」を終了いたします。